

悩ましい総称

私たちは「昨日ケータイを買った」のように、ある特定の出来事について話すこともあるが、「猫はかわいい」とか「チリワインは値段の割にうまい」のように、特定の出来事と関係なくいつでも当てはまることについて話すこともある。このような文を言語学では「総称文」と呼ぶ。授業でフランス語作文をしていると、学生諸君は総称文を作るとき特に冠詞のまちがいが多いようだ。「この冠詞はちがいますね」と言うと、「え～、そんなこと習ってません」という答が返ってくるが、確かに学生諸君を責めるわけにはいかない。教室ではあまり教えられていないからだ。私は総称文の冠詞についてきちんと説明したフランス語の教科書を見たことがない。英語でも似たり寄ったりだろう。私はよく学生に、「英語で『私はリンゴが好きだ』は何と言いますか」と質問してみるが、I like apples. という正しい答が返ってくることはめったにない。I like an apple. (好きなリンゴはひとつしかないのか!) とか、I like apple. (すりおろしたリンゴが好きなのか!) とか、おもしろいほどいろいろな答が返ってくる。中学・高校と6年間勉強してきたはずの英語でさえ、このありさまである。いわんやフランス語においておや、なのである。

実はこの「一般的に成り立つものごとを述べる」総称文というのは、なかなかやっかいな問題で、言語学者も長年頭を悩ませてきた。天使の性別を論じるかのごとき複雑にして難解な議論が延々と続けられているが、ここではあまり難しい話には立ち入らないようにして、総称文における冠詞について見て行くことにしよう。

総称には3通りの言い方がある

さて、「ライオンは危険な動物だ」という総称文で、「ライオン」にどのような冠詞がつくかという所から始めよう。「ライオン」のように一頭、二頭と数えることができる名詞の場合は、(1)～(3)の3通りの言い方がある。「水」のように数えられない名詞だと、(4)の言い方ひとつしかない。

- | | |
|--|--------------|
| (1) <i>Les lions sont des animaux dangereux.</i> | [複数定冠詞] |
| (2) <i>Le lion est un animal dangereux.</i> | [単数定冠詞] |
| (3) <i>Un lion est un animal dangereux.</i> | [単数不定冠詞] |
| (4) <i>L'eau est une substance pure.</i> | 「水は純粋な物質である」 |

上の例を見てまず頭に浮かぶのは、数えられる名詞について3通りある言い方は、どれもみな同じなのだろうかという疑問だろう。(1)～(3)はすべて、「ライオンは危険な動物だ」という、ライオン一般について常に成り立つことを述べている。この意味では3つの文は「同じ」だが、いつでも交換可能というわけではない。次は3歳から7歳までの子供向けの本から取った例文で、写真とともにライオンの生態を解説した文章の一部である。

(5) *Le lion est un animal sauvage, très fort et très féroce : on dit que c'est une fauve. Sa tête est énorme. (...) Les lions vivent en Afrique dans la savane immense et plate. Là-bas, il fait très chaud.*

「ライオンはとても強くて獰猛な野生動物です。猛獣と呼ばれています。ライオンの頭はすごく大きいです。(...)ライオンはアフリカの広くて平らなサバンナに住んでいます。そこはとても暑いです。」

短い文章のなかで、単数の *le lion* と複数の *les lions* の2通りの言い方が使われている。これは果たして書き手の気まぐれなのだろうか。もうひとつ例を見てみよう。

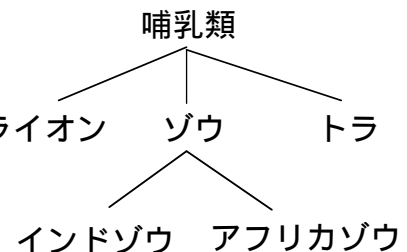
(6) *Les Français nous adressent souvent le reproche de travailler trop. (...) Pour nous, une existence qui ne trouve pas dans le travail sa raison d'être, subit une perte de dignité. Tandis que le Français, lui, trouve indigne de porter atteinte à un certain équilibre entre le travail et l'oisiveté. (E.R. Curtius, Essai sur la civilisation en France)*

「フランス人は働き過ぎだとわれわれドイツ人をよく非難する。(...)われわれドイツ人にとって、仕事に生甲斐を見いださない人生は尊敬に値しない。一方フランス人の方は、仕事と余暇の適度のバランスを壊すのはよくないと考えるのだ」

ここでもやはり複数の *les Français* と単数の *le Français* が両方使われている。とても気まぐれや偶然とは思えない。書き手は意図的に使い分けているのである。ではその使い分けの隠れたしくみとは何だろうか。

「自然な集合」と「たまたまできた集合」

図鑑などで動物の生態を解説するときには、*le lion* のように定冠詞単数がよく使われる。例(5)の最初に出てくる *le lion* がこれにあたる。私たちは知識として、この世には「ライオン」「トラ」「ゾウ」などの動物種がいることを知っている。このように私たちの知識のなかで、とても自然な集合として成立しているものを「自然な集合」と呼ぶ。ここで「集合」というのは個体の集まりのことで、むずかしく考える必要はない。自然な集合は大きな区分けから小さな区分けまで、親子関係をなしているという特徴がある。動植物の例がわかりやすい。「ゾウ」は「哺乳類」という大きな区分けに属していて、「ゾウ」の下には「インドゾウ」「ライオン」「ゾウ」「トラ」「アフリカゾウ」などのさらに小さな区分けがある。「自然な集合」はこのように親子関係をなしているという点が大事なのだ。



定冠詞単数の *le lion* は、このような親子関係を背景とした自然な集合について、本質的な性質を述べるときに使う。例(5)では、野生動物であったり獰猛であったりするの、ライオンのもとからある性質である。例(6)でフランス人とドイツ人に特有の国民性をくらべるときは、*le Français* が使われている。「自然な集合」は上の図のような親子関係を背景に成り立っているので、お互いどうしをくらべるときに使われやすい。だから交通機関としての地下鉄とバスをくらべるときは、定冠詞の単数がいちばんよい。次の文の背景には「都市交通機関」という親が控えているこ

とに注意すべきである．ここにもことばの見えない背景がある．

(7) *Le métro est plus pratique que le bus.* 「地下鉄はバスより便利だ」

これにたいして定冠詞の複数 *les* は「たまたまできた集合」(めんどうなので「たま集合」と略す)をあらわす．「今この部屋にいる人たち」とか、「昨日うちの庭に来たスズメ」などがそれである．「自然な集合」と「たま集合」のちがいを示すおもしろい例がある．英語で *The Coke bottle has a narrow neck.* 「コーラ瓶の首は細い」とは言えるが，×*The green bottle has a narrow neck.* 「緑の瓶の首は細い」はおかしい．「コーラ瓶」はアメリカ文化では，瓶のタイプとして「自然な集合」をなしている．日本だったら「一升瓶」「ビール瓶」あたりがそうだろう．これにたいして「緑の瓶」は，色が緑だということでもたまたま集められた集合にすぎない．このような「たま集合」は *green bottles* と複数にしなくてはならない．フランス語では *les* がこれに当たる．「たま集合」はたまたま集められた集合なので，そのメンバーについて本質的でないことを述べるのに適している．例(5)の *Les lions vivent en Afrique.* がそれである．アフリカに住んでいようが，モンゴルに住んでいようが，ライオンであることには変わりがない．こういうときは複数にする．また例(6)の *Les Français nous adressent...* も同じである．ドイツ人を非難するというのは，フランス人とは何かを述べるような本質的な特徴ではない．ときどきそうするだけである．こう考えれば次の例でなぜ *le* がよくないかは納得がゆくだろう．

(8) a. *Les chats me craignent.* 「ネコは私を怖れる」

b. × *Le chat me craint.*

「私を怖れる」というのは，哺乳類のなかの「ネコ目」に属する動物種に本質的な性質ではない．だから *le chat* はおかしい．たまたま私が近所でネコに出会うと，ネコが逃げて行くというだけの話だから，ここでのネコは「私と出会う」ということで作られた「たま集合」である．だから *les chats* がぴったりなのである．その証拠に，*les chats de mon quartier* 「うちの近所のネコ」はいいが，×*le chat de mon quartier* は変になる．次の例も同じで，「シャム猫」は猫のひとつの種として確立している「自然な集合」だが，「白い猫」は「たま集合」である．ここは *les chats blancs* と複数にするのがよい．

(9) a. *Le chat siamois est intelligent.* 「シャム猫はかしこい」

b. × *Le chat blanc est souvent chétif.* 「白い猫は体が弱いことが多い」

「自然な集合」を問題にするとき，*le* と *les* は一見区別がつかなくなる．「ネコはニャーと鳴く」というのは，*Le chat miaule.* とも *Les chats miaulent.* とも言えるから，このふたつの言い方は同じだといふ考えてしまいがちだが，実はふたつはちがうのだ．というわけで，フランス語で「私はリンゴが好きだ」をどう言えばいいかももうおわかりだろう．正解は *J'aime les pommes.* であって，×*J'aime la pomme.* とは言わない．「リンゴ」は確かに「自然な集合」ではあるが，「私が好きだ」というのはり

ンゴという種に本来そなわった性質ではない．たまたま私が好きなだけだから les
pommes となるのだ．「先生，不定冠詞の un chat だったらどうなるんですか」おっ
とっと，うっかりしてこっちを忘れていた．今日は時間がないので，不定冠詞の総
称については次回にお話することにしよう． (とうごう・ゆうじ)